

高知県香南市におけるスポーツツーリズムの可能性に関する研究

学生氏名 川田 朝也

指導教員 教員氏名 中村 智彰

研究背景

近年、高知県香南市では人口減少や少子高齢化、若年層の流出が進行し、中心市街地の商業機能低下や地域活力の衰退が課題となっている。こうした中、交流人口の創出や地域経済の活性化を図る手段としてスポーツツーリズムが注目されている。香南市は海や山などの自然環境に恵まれ、スポーツ活動との親和性が高い地域である。一方、スポーツと観光を結びつけた取り組みは十分に展開されていない。そこで、本研究では香南市におけるスポーツツーリズムの可能性について検討する。

研究目的

本研究の目的は、高知県香南市におけるスポーツツーリズムの現状と課題を明らかにし、地域特性に即した持続可能なスポーツツーリズムの推進方策を検討することである。

研究方法

本研究では、香南市におけるスポーツツーリズムの実態を把握するため、地域スポーツ団体関係者を対象としたインタビュー調査を実施した。また、成功事例として、しまなみ海道のサイクリングおよび三重県熊野市のマリンスポーツを活用した町おこしについて文献調査を行った。内容分析を用いて整理し、香南市の現状と成功事例を比較・検討した。

分析結果

分析の結果、香南市では行政・民間・地域団体間の連携不足、観戦を想定していないスポーツ施設整備、誘客や受入体制の未整備といった課題が明らかとなった。一方、成功事例では、利用者目線に立った受入環境の整備、多主体による協働体制の構築、スポーツと他の観光資源を組み合わせた滞在型観光の形成がスポーツツーリズムの発展に寄与していることが示された。

考察・結論

香南市におけるスポーツツーリズム推進には、スポーツを観光・交流・産業振興の視点から捉え直し、行政・民間・地域住民が連携する横断的な推進体制の構築が不可欠であると考えられる。また、スポーツ施設が中心市街地から離れて立地している特性を踏まえ、シャトルバスの運行やスタンプラリー等を通じて来訪者の回遊性を高める施策が有効である。大規模イベントに依存せず、小規模で継続的な取り組みを積み重ねることで、香南市におけるスポーツツーリズムは地域活性化の有効な手段となり得ると結論づけた。